

○令和3年度有珠山火山噴火総合防災訓練の実施について

令和3年10月15日に、有珠山火山防災協議会（洞爺湖町・壮瞥町・豊浦町・伊達市(事務局)・北海道ほか防災関係機関）は、有珠山噴火を想定した総合防災訓練を実施しました。



- ・目的：防災関係機関(北海道・警察・陸上自衛隊・消防など)との災害対策本部運営訓練（図上訓練）と、コロナ禍における大規模災害時の避難訓練で構成し、「有珠山火山避難計画」を検証する。
- ・訓練想定：火山性地震の増加等に伴う段階的な噴火警戒レベルの引上げ
- ・参加者数：約650人（うち住民等約340人）

■災害対策本部運営訓練

実際に北海道をはじめとした関係機関の現地災害対策本部が設置される伊達市消防・防災センターを会場とし、対策本部の設置・運営要領を演習しました。

また、参加各機関・市町間をWEBで接続するなど、可能な限りリアルな状況を演出して実施しました。



災害対策本部（消防・防災センター）



防災センターは、2000年有珠山噴火を教訓に、災害に強いまちづくりのために建設された「防災拠点施設」で、西胆振行政事務組合消防本部・伊達消防署が併設されています。

普段は、有珠山の特徴を解説したパネルが展示されているほか、地震体験など防災について学ぶことができる施設ですが、有珠山噴火などの災害が発生したときには、北海道をはじめとした防災関係機関の現地災害対策本部として機能できるように整備されています。

■避難訓練

各市町が地元で個別に、情報発信～避難行動～避難所設営、避難所運営訓練を実施しました。

このうち伊達市では、上記の訓練メニューに加えて、避難行動要支援者の避難訓練を障がい者施設の運営法人と、ペット同行避難者の避難訓練をペット保護等に係る活動を展開しているNPO法人と北海道獣医師会の参加協力を得て、それぞれ実施しました。

また、一日防災学校の位置づけで、ハザードエリア内の小学校全児童と教職員が避難所設営及び運営訓練に参加し、参加住民とともに、段ボールベッドの組立てなどを体験しました。



福祉車両で避難する避難行動要支援者



感染症対策を考慮した避難所設営



段ボールベッドを組み立てる児童



ペットを同行した避難手順の確認

有珠山は20～30年サイクル（前回噴火は23年で、前々回噴火は33年で噴火）で噴火を繰り返しており、次期噴火が迫っている中、改めて住民に対して防災意識を喚起できました。

【問合せ先】

北海道伊達市総務課危機管理室

TEL：0142-82-3162

E-mail：kikikanri@city.date.lg.jp

事務局（鹿児島市危機管理課）

TEL：099-216-1513

E-mail：kiki-kazan@city.kagoshima.lg.jp